「在宅を支える力をどう守るか」

品川区・高桑春彦氏が語る介護保険25年の現場と制度課題（後編）

高桑氏は、前編で「改革先行で現場停滞し、在宅基盤が守れぬ危機が迫る。人材枯渇の中で連携不足と医療の視点の弱さが露呈する」と危機感を表した。

現場からデータを集める仕組みとしてLIFEなどが整備されてきたが、集めたデータを分析し、政策やサービス設計に反映させるところまで全く追いついていない。何が足りないのかをデータから読み取り、新しいサービスや仕組みを作るには、専門性と時間とお金が必要だが、そこにまで投資できていないのが現状だ。

品川ケア協議会事務局長　高桑春彦氏

福祉用具、予防、自治体支援制度を活かすために

福祉用具については、レンタルと購入の選択制が始まり、一部では購入を選ぶケースが増えているものの、品川区内では購入選択は3～4％程度にとどまっている。レンタルには、用具そのものの価格だけでなく、モニタリング、メンテナンス、消毒・回収など多くの人件費・運営コストが含まれており、単純な物品価格との比較だけでは、その価値は見えてこない。特にベッドのように安全基準や品質管理が重要な機器は、レンタルに一本化した方が利用者にとっても事業者にとっても望ましいのではないだろうか。

現場を知る自治体が地域の介護を守る

介護保険制度は非常に優れた制度であるが、制度には必ず限界があり、すべてのニーズを税や保険で賄うことは不可能だ。にもかかわらず、短期的な成果を求める評価・成果主義が強まりすぎると、現場や自治体の裁量や柔軟性が奪われ、かえって制度の持続性を損ねかねない。

予防・総合事業についても反省がある。品川区は訪問介護・通所介護の予防事業（総合事業）を早期に整備したが、本体報酬の減額や現場の余力不足により、予防事業から撤退する事業所が増えている。予防給付から総合事業への円滑な移行を図るため、「従前相当サービス」を守るあまりに、新規利用者への予防マネジメントの仕組みづくりが十分でなかった。

一方で、国の制度設計が「上から降りてくる」中で、自治体や現場の声が十分に反映されていないことの問題も大きい。制度の枠組みを前提としながらも、現場を知る自治体が、どこまで創意工夫と政治判断との狭間に立たされながらで地域の介護を守れるのか。

連載85

わたしは共用品

文・星川安之
絵・Nozomilkyway

浜松の農業生産法人「京丸園」では、25年ほど前から障がいのある人を社員として毎年一人ずつ雇用しています。その仕事の一つに、ネギやミツバ、チンゲン菜などの苗を植えるために使ったトレーの洗浄があります。

◇

ある時、入社して日の浅い社員に、100枚ほどのトレーを洗う仕事を任せました。その際責任者は、他の社員に伝えるのと同じように「ちゃんと洗ってください」と指示しました。その場を離れて1時間ほどして戻ったところ、障がいのあるその社員は、最初の一枚をまだ丁寧に洗っていたそうです。

◇

責任者は、その社員を紹介してくれた特別支援学校の先生に「紹介してくださった生徒さん、仕事できませんよ」と電話で訴えたところ、先生から「すみません。でも仕事ができる生徒なのにおかしいですね。あなたはどんな指示を彼に出しましたか？」と尋ねられました。

『『ちゃんと洗って』としっかり伝えました」と答えると、先生は「それは、指示ではありません。指示とは例えば『トレーの表をスポンジで2回こすってから、トレーを裏返してまたスポンジで2回こすり、水で流して、次のトレーに移る』というように、具体的に伝えることです」と説明されました。

◇

疑心暗鬼ではありましたが、責任者はそのアドバイスどおりに指示すると、その社員は次から次へとトレーをしっかり洗うようになったそうです。

「ちゃんと」のほかにも、「ちょっとやっといて」「しっかりやっといて」など、具体性のない指示や説明は、多くの場面で意図が通じない原因になることがあります。具体的に説明することは、その解決策の一つです。

具体的に伝えよう

地域力発見

宮下今日子
第144回
東京都墨田区②

個別避難計画の作成を担うケアマネジャー

墨田区は荒川と隅田川に挟まれ、水害のリスクが高い。そのため、要配慮者を対象にした個別避難計画は重要性を増している。計画書の作成は、区の介護保険課と高齢者福祉課が、防災課の依頼を受けて、区内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに委託している（条件などは前回掲載）。

個別避難計画を作成する際、まず対象者を選ぶことから始まる。「すみだケアマネジャー連絡会」の副代表、岩﨑将芳さん（けあぷらんたま代表）は作成を受託した一人。20年以上この地域でケアマネジャーとして働き、地元の事情に明るい。2022年度のモデル事業では、自身のケースから「独居で要介護5の人で、荒川沿いに居住する人」を対象者に選んだ。

当時は別の事業所に勤務していたが、その時には約40人の利用者を担当し、そのうち1人が条件に該当。個別避難計画書を作成した。

その後、23年度から本格実施となり、要介護4の人にも対象範囲が広がった。

作成の流れ

作成には、まず本人の同意を得る必要がある。その後、情報提供を行い、サービス担当者会議を経て計画書を作成。そして提出するまでが一連の流れ。対価は一件あたり7700円で、同意が得られず情報提供のみで終わった場合は1100円となる。岩﨑さんは、関係者を集めて会議を開くのは結構大変で、連絡会からも作成に手間がかかったと聞いているそうだ。

今後は電子申請化へシフト

計画書の作成に手間がかかる理由について岩﨑さんは、書類が手書きだった点を挙げた。この指摘には岩﨑さん独自の気付きがあった。それは、江戸川区の一部地域を担当していたことによる。

江戸川区は荒川を挟んで墨田区側に一部エリアが入り込み、そのエリアの利用者5人を担当していた。そのうち4人が計画書の該当者になった。この抽出数は高いが、さらに作成の手間の違いを挙げた。「利用者宅を訪問し、説明を行って同意を得た後、その場でスマートフォンを使って一緒に入力し、送信するだけで完了した。作業時間は非常に短く効率的だった」と岩﨑さん。一連の流れが簡素化され、作成者はQRコードを読み取ることで、スマートフォン上で作成できたそうだ。

非常用トイレの説明風景。左から2番目が岩崎さん

要介護認定の申請や、紙おむつや配食等のサービス申請については、26年度に電子化される予定。個別避難計画書についても、今後検討していくそうだ。

初動対応者の選定も重要

岩﨑さんが作成した計画書の一つでは、本人の実家がある茨城に事前に避難する計画を立てた。戸建てなど低い家屋の場合は水浸被害が避けにくく、事前の対応が必須。地震と違い水害なら事前に予測できるから可能だ。

また、警戒警報が出た段階で誰が助けに入るかを担当者会議で十分話し合う。「みんな協力的で、すぐに担当が決まる」と岩崎さんは教えてくれた。普段から本人に寄り沿い、愛情も深い福祉職。頼りになる存在だ。

〝防災遠足〟を実施

墨田区では芝浦工業大学の学生と連携して、毎年、防災イベントを開いている。関東大震災と東京大空襲の被害を教訓に建てられた通称〝防災団地〟は有名で、広域避難場所にも指定され、当日は3コースに分かれてこの終着点を目指した。実際に町を歩くと、消火器が意外に多く設置され、「この付近は海抜マイナス0・9m」という標識も目に止まった。木造家屋が密集する袋小路では、避難経路の説明もあった。参加したケアマネジャーは、この地域の人を担当しているので、参加してよかったと話していた。

災害対策は区の防災課を中心に、他部署が連携する。特にケアマネジャーが現場をみる視点は重要で、災害計画の実効性を高める鍵となって欲しいものだ。

商品情報

装具での歩行状態をAI解析
「デジタル装具手帳」
＝テックワークス＝

神経疾患などの患者が、より快適に下肢装具を利用するためのアプリ。家族も一緒に学べる装具の基礎知識や使用方法の解説、また現在使用している装具については作成日やメンテナンス履歴が確認でき、メンテナンスの適切なフォローを促すことができる。

歩行状態に関しては、装具の使用時に同アプリ（スマートフォン）を携行するだけで、歩数や歩行時間、左右非対称性、歩幅などを記録。AIによる歩行動画の高度な解析も行える。医療機関や介護事業所、義肢装具メーカーと情報共有しやすい「つながり機能」も。

基本機能は利用無料。

テックワークス（札幌市）より発売。

☎011-616-5622

蒸気が汚れ除去・保温保湿
「ラプレシャンプースチーマーMA（小型軽量タイプ）」
＝ティ．アイ．プロス＝

美容室向けヘアースチーマーのメーカーが独自技術で開発したシャンプー専用の特殊スチーマー。近くは濡らして遠くは濡らさず、保温力の強い特殊スチームと専用薬剤が、湯滴（液体）の勢いで毛根などの皮脂汚れを浮かせる。使用後はタオルで拭き取るだけ。洗い流しシャンプーと同等の爽快感、高い保湿力が得られる。体感温度は入浴時の温水シャワーと同程度の約40度。

利用者はベッドで寝たまま、座ったままの状態で行える。介助者1人での簡単・短時間作業を助ける。1人分で水道水約1Lを使用。

本体6kg。居室での介護や訪問サービスでの持ち運びを考慮した小型仕様。

価格はオープン。

ティ．アイ．プロス（京都府宇治市）より発売。

☎0774-28-5778

おむつ排尿をリアルタイム把握
「スマートおむつシステム」
＝JTP＝

紙おむつのパッドに装着したセンサーパッチが排尿の状態や量をリアルタイムで把握し、自動記録・分析を行う。介護者は目視による排尿確認の手間が軽減。最適なタイミングでのおむつ交換は、床ずれやかぶれといった皮膚トラブルのリスク低減、さらにおむつのコスト削減にもつながる。

管理システム（アプリ）は▽排尿のリアルタイムモニタリング▽利用者個々の排尿予測▽デジタル排尿日誌の作成▽期間ごとの排尿パターンの分析――などの機能をもつ。排尿データは自動で最大30日分記録。医師と随時共有することで健康状態の変化、異常の早期発見にも役立つ。

価格は要問合せ。

JTP（東京都品川区）より発売。

☎03-6408-2488

耳をふさがない集音器
「cocoe Ear」
＝NTTソノリティ＝

耳かけ型で閉塞感や痛みが生じにくい集音器。片耳10gと自然な装着感で、長時間使いやすい。耳にかけると起動。特許技術を搭載し、オープンイヤーでも音漏れを抑える。ボタンを押して集音機能をオフにすれば、イヤホンとしても使える。

専用アプリで音量調整やモード切替。

1.5時間の充電で約8時間使用できる。

カラーはホワイト、ベージュ、ブラック。落下防止のネックストラップが付属。

販売予定価格は3万9,600円（税込）。

NTTソノリティ（東京都新宿区）より発売予定。先行して、2月15日までクラウドファンディング実施中。

問合せフォーム

階段昇降も可能な電動車いす
「AVEST」
＝LIFEHUB＝

レスキューロボットに用いるクローラー構造を応用し、階段の乗越えや不整地での走行を可能にした次世代電動車いす。1人での移動範囲を格段に広げる。センシングとアクチュエーション技術が車両・利用者の重心を制御。これにより不整地や階段など地面が大きく傾いている走行環境でも安定性を確保し転倒を回避する。

また、車両前方の障害物や段差を検出するセーフティ機能を搭載。警報ブザーとディスプレイで衝突の可能性を知らせ、かつ自動ブレーキで減速する。

スポーティなデザインでボディ・シート・サイドストライプは豊富なカラーバリエーション。

価格は150万円（非課税）。

LIFEHUB（東京都港区）より限定50台で今年発売予定。

問合せは同社サイト（QR）より。

ベッドの重さを利用した設置型リフト
「つるべー BB1セット」
＝モリトー＝

同製品は今後、施設も病院も在宅のレンタルで主流となることが期待される据置タイプ。支柱を中心に360度回転しベッドから車いすへの移乗だけでなく、端座位姿勢、立位姿勢、座位歩行、立位歩行、排泄支援などの多機能リフトとして安全で安定した使い方が可能となる。キャスター付きのベッドを使用すれば容易にベッドを移動できる。支柱の位置はベッドの頭側・足側の左右いずれにも設置でき、ポータブルトイレへのリフト移乗もできる。耐荷重120kg。介護保険貸与製品。介護テクノロジー（移乗支援・非装着）適用。

価格：64万9,400円（非課税）。設置費用、吊り具別途。

モリトー（愛知県一宮市）より発売

☎0120-65-2525

MORITOH CORPORATION 株式会社モリトー
起居動作が難しくなってきた方へ

ベット用リフト、床走行リフト、お風呂用リフトは介護保険レンタル対象品です。
スリングシート、ハーネス、ぶらん歩は介護保険特定福祉用具販売対象品です。

東京有明ショールーム（東京営業所）
〒135-0063 東京都江東区有明 3丁目 5番 7号 TOC 有明EAST 9F 2号室
TEL:03-5531-5555/FAX:03-5531-5550 MAIL:info@moritoh.co.jp HP